

平成 27 年度 危機管理士 2 級講座（社会リスク編）開催レポート

2015 年 8 月 6 日～8 日にかけて、平成 27 年度危機管理士 2 級試験社会リスク編が開催されました。自治体、民間企業に所属される方々をはじめとして、幅広い分野から多くの方々に参加して頂きました。

【2015 年 8 月 6 日】

第一講義 10:30-12:00

「危機管理概論」 明治大学 市川宏雄

「危機管理」とは、自然や人がもたらす危険のリスクに社会がうまく対処していくことを指します。講義の中では、アメリカ同時多発テロ発生時に NY 市の指揮を執り英雄となったジュリアーニ市長や、対象的に東日本大震災発生時に国民からの信頼を失った首相官邸を実例に「有事の際の適切なリーダーシップ」のあり方を学びました。また「ハインリッヒの法則」をもとに、重大な問題の発生の裏にどのような構造的問題が潜んでいるのか、問題が発生した場合どういった対応が人々から求められるかをお話し頂きました。



第二講義 13:00-14:30

「国民保護」 神奈川大学 幸田雅治

私たちの社会を脅かす危機のひとつとして、近年では米国同時多発テロやフランスにおける連続テロの様な「国際的テロ」が挙げられるようになりました。そのような「あつてはならない事態から国民を保護する仕組み」こそ、この講義のタイトルでもある「国民保護」です。講義の前半では、国民保護法成立の背景にあった社会情勢や策定までの経緯を、後半では実際に生物兵器や弾道ミサイル、ゲリラや特殊部隊による攻撃を受けた場合、どのような安全の確保および避難指示を行うかについて学びました。



第三講義 14:40-16:10

「感染症」 国立保健医療科学院 大山卓昭

過去に発生した感染症集団発生事例（0157・B型肝炎）とその広域化を受け、日本の感染症対策の中心となる疫学者の養成を目指す FETP（実地疫学専門家養成コース）が 1999 年に国立感染症研究所に創設されました。講義前半ではその FETP についてお話し頂き、講義後半では「感染症危機管理のための考え方」というテーマで、「時・場所・人」で分類しながら症例探索・図式化を行う疫学調査の方法についての講義が行われました。



第四講義 16:20-17:50

「大規模事故と広域医療対応」 日本 DMAT 近藤久禎

DMAT とは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」のことで、その使命は「避けられた死を減らす」ことにあります。講義では、DMAT の目標と活動戦略・課題を確認した後、東日本大震災発生時に DMAT が実際どのように機能したのかについてお話し頂きました。後半は 3.11 の福島に焦点を当て、被害の全貌が見えない中でどのように被災地の需要に応じるか、どのようなシステムで対応を行うべきであったかを考えました。



【2015 年 8 月 7 日】

第五講義

「業務継続計画 (BCP)」 東京海上日動リスクコンサルティング (株) 指田朝久

行政・民間組織が災害等で甚大な被害を受けた場合、その後の業務レベルは著しく低下します。そのようなリスクに対応するため、業務の立ち上げ時間を短縮する取り組みや、発災直後の業務レベルの向上の手順を決めておくことを「業務継続計画 (BCP)」と呼び、近年広く普及し始めました。第二講義ではこの BCP の仕組みについて、東日本大震や新型インフルエンザ対策特別措置法で行われたものを事例に挙げながら、講義が行われました。



第六講義

「情報セキュリティ」 (株) 日立製作所 相羽律子

「インターネットバンキングやクレジットカード情報の不正利用」が IPA 情報セキュリティ 10 大脅威 2015 の 1 位にランクインしたように、私達の持つ重要な情報が何者かに悪用されるという事件が増加しています。ハッキングされる情報も金銭に関わるものだけでなく、車のブレーキシシステムなど人の命に直結するものにまで広がりつつある深刻な状況です。

この講義では、情報が様々なリスクに晒された時、その情報を有する主体がどのようなリスクマネジメントプロセスを行っていくべきかについて、講義を行って頂きました。



第七講義

「人為災害・事故とリスク・保険」

損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント（株） 高橋孝一

既に起きてしまった事故・事件からの被害を最小限に抑えようとする「危機管理」に対して、これから起きるかもしれない危険・損害に対して事前に対応しようとする活動のことを「リスクマネジメント」と呼びます。この講義では自治体や中堅企業をモデルケースに、災害や事故・テロ等の様々なリスクを想定し、その対策とリスクファイナンスについて学びました。



第八講義・第九講義

「危機管理演習・危機管理演習報告会（地域の安全と防犯）」 立正大学 小宮信夫

防犯教育、防犯カメラの設置、ボランティアによるパトロールなどが盛んに行われるようになった今日の日本ですが、実はその犯罪件数は減ってはいません。我々は時に「犯罪認知件数＝犯罪件数」であると思い込んでしまいがちですが、実際には認知件数以上の犯罪件数が存在します。この講義では子供や地域住民を犯罪者から守るため、犯罪者が好む場所(ホットスポット)のポイントを教わった後、実際に御茶ノ水の街でフィールドワークを行って受講者自らホットスポットを探しました。





【2015 年 8 月 8 日】

第十講義

最終日に行われた第十講義では関西大学の河田先生に「わが国が置かれている危険な災害環境と対応策」というテーマで、日本の災害発生傾向や災害対策基本法の問題点等についてお話頂きました。講義の中では「今の災害多発時代を生きるためには、必要な知識・情報・教訓を自分から獲得しに行かなければならない」ということが強調されました。

